

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は、2024 年度日本陸上競技連盟競技規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 競技場使用上の注意

(1) 開門・閉門時間は以下の通りとする。

		開門時間	閉門時間
第 1 日目	7 月 27 日 (土)	7 : 00	19 : 00
第 2 日目	7 月 28 日 (日)	7 : 00	17 : 00

(2) ウォーミングアップは競技場外の公園内およびメインスタンド 2 階雨天走路及び競技に支障のない範囲で競技場バックストレートにて行う。**雨天走路及びバックストレートの使用に関しては競技役員の指示に従うこと。**競技場外でウォーミングアップする際には歩行者を最優先とし、ほかの利用者の迷惑にならないようにすること。

(3) 投擲種目ででの使用などを除き、極力芝生内に立ち入らないこと。

(4) 1 日目の競技終了後は、メインスタンドに荷物を置いて行っても良い。ただし、風で飛ばないように荷物をまとめた状態とし、荷物は各大学が責任を持って管理すること。また貴重品等は各自で保管し、万一のことがあっても主催者が責任を負うことはない。

3. アスリートビブスについて

(1) アスリートビブスは、北海道大学 101~199、1001~1099、東北大学 201~299、2001~2099、東京大学 301~399、3001~3099、名古屋大学 401~499、4001~4099、京都大学 501~599、5001~5099、大阪大学 601~699、6001~6099、九州大学 701~ 799、7001~7099、以上のように固定制とし、男子は白地に黒文字で、女子は白地に朱文字で、各大学で大会前に準備する。

(2) トラック競技出場者はレーンナンバーと同じ番号の「腰ナンバー」を招集時に受け取り、右腰やや後方に貼付すること。

(3) 5000mW 出場者は、レーンナンバーと同じ番号のアスリートビブスを「腰ナンバー」の他に 2 枚配布するので、前後につけること。

4. 競技用靴について

- (1) スパイクのピンの長さはトラック種目・走幅跳・三段跳・棒高跳は 9mm 以内、走高跳・やり投は 12mm 以内とする。
- (2) TR5.2 を適用し、トラック競技で使用できる靴底の厚さは、5000mW は 40mm 以内、800m 未満の種目は 20mm、800m 以上の種目は 25mm までとする。フィールド種目において使用できる靴底の厚さは三段跳が 25mm まで、それ以外の種目は 20mm までとする。

5. 競技場内でのウォーミングアップについて

- (1) 午前 7 時から午前 8 時 20 分までは、全体を使用可能。その後は、競技の進行を阻害しない範囲で、ウォーミングアップに使用できるエリアを逐次アナウンスするため、それに従うこと。
- (2) 競技場内で投擲練習は競技開始前に競技役員の指示により行う
- (3) ハードル練習について、午前 7 時から午前 8 時 20 分までホームストレートの 7 レーンに女子 100m ハードル、8 レーンに男子 110m ハードルを設置する。また、午前 7 時から午前 9 時 30 分まで第 1 曲走路の 8 レーンに男子 400m ハードルを設置する。

6. 招集について

- (1) 招集時間は以下の通りである。

	招集開始	招集終了
棒高跳以外の競技	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒高跳	競技開始 60 分前	競技開始 50 分前

- (2) 招集所は、第 1 ゲート（ゴール付近）に設ける。
- (3) トラック種目は第 1 ゲート付近での招集の後、競技開始約 10 分前にスタート地点で最終コールを行う。
- (4) 競技規則 144 条 3 (b) により、スマートフォン等の機器を競技場に持ち込むことはできない。
- (5) 各種目の同一時刻に複数種目に出場するため、招集が受けられない場合、招集開始時刻までに「複数種目出場届」（招集所に用意）を招集所に提出すること。
- (6) 招集完了時刻に少しでも遅れると、当該種目を棄権したものとして処理するので十分注意すること。
- (7) リレー競技は、リレーオーダー用紙(招集所に用意)をチームにつき 1 部記入の上、招集完了時刻の 1 時間前までに招集所に提出すること。

7. 欠場について

- (1) 対校の部の差替（正選手と補欠の入替）及び欠場に関しては、最終決定を **7/24(水)の正午**とする。各校担当者は最終決定までに自校の分をまとめ、自校以外の 6 大学に伝達する。
- (2) オープンの部において、あらかじめ棄権が判明している選手については、各校担当者は前日の正午までに棄権者の一覧をまとめ、主管校の担当者まで伝達する。
- (3) やむを得ず、上記の最終決定以降に欠場する場合は、招集開始時刻までに「欠場届」（招集所に用意）を記入し、招集所に提出すること。

8. トラック競技について

- (1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の順による。
- (2) 800m以下のトラック競技において、選手の棄権状況により出場選手が 8 名以下となった場合、予選ラウンドを実施せずに再度番組編成を行い、決勝ラウンドのみを開催する。その場合の競技時間はタイムテーブル記載の決勝ラウンドの競技時間に準じる。
- (3) 決勝の組み合わせ、およびレーン順は主催者が決定する。
- (4) 代表者会議にて欠場者多数により、予選ラウンドが行われない競技については、選手の最高記録を考慮して決勝ラウンドの番組編成を行う。
- (5) 計時について、トラック競技の計時は写真判定（0.01 秒）とする。ただし、装置に故障等のトラブルが生じた場合、手動計時（0.1 秒）とする。
- (6) 女子 800mは各レーンに 2 人ずつ入って最初のカーブをセパレートで走る方式で実施する。
- (7) 以下の種目については、スタート後一定時間を経過して残り 1 周に達していない場合、または競技に一定に支障が出ると審判長が判断した場合、審判長の指示により競技を中止させることがある。

男子 5000m…スタート後 20 分、OP 女子 5000m…スタート後 25 分、5000mW…スタート後 35 分

※ただし対校の部については 6 位入賞者がゴールするまでは、制限時間を超過しても競技を続行することがある。

※OP 男子 5000m の 1 組目は OP 女子 5000m と同時スタートであるため、OP 男子 5000m で制限時間を超過した選手がいても、OP 女子 5000m の選手が競技中の場合は競技を続行する。

- (8) オープン種目ではスタート練習は行わず、ブロック合わせのみとする。

9. フィールド競技について

- (1) 対校のフィールド種目（走高跳、棒高跳を除く）においては、3回試技を行い、上位8名がさらに3回試技を行う。長さの跳躍競技及び投擲種目のオープン種目の試技数は3回とする。
- (2) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- (3) フィールド競技における持ち時間は、日本陸上競技連盟競技規則 TR25.17 に準じる。
- (4) 対校種目の走高跳・棒高跳の練習の高さと最初の高さとバーの上げ方は、下記のとおりとする。ただし、当日の審判と選手の協議で変更することもありうる。

フィールド種目（走高跳・棒高跳）のバーの上げ方について

種目		練習 A	練習 B	練習 C	1	2	…		
走高跳	男	1m60	1m80	2m00	1m60	1m65	…	1m95	1m98
	女	1m20	1m40	1m50	1m20	1m25	…	1m60	1m63
棒高跳	男	2m80	3m60	4m20	2m40	2m60	…	4m00	4m10

<男子走高跳>

- ・初期高さは 1m60、以後 1m95 まで 5cm 刻み、1m95 以後 3cm 刻み

<女子走高跳>

- ・初期高さは 1m20、以後 1m60 まで 5cm 刻み、1m60 以後 3cm 刻み

<男子棒高跳>

- ・初期高さは 2m40、以後 4m00 まで 20cm 刻み、4m00 以後 10cm 刻み

- (5) オープン走幅跳以外の跳躍種目は 1 つのピットで行う。オープン走幅跳は 2 つのピットで行う。
- (6) 男子三段跳の踏切板は 13m 板を使用する。
- (7) 選手の競技力をみて、審判が変更の必要があると判断した場合、全体の競技進行を考慮して変更することとする。

10. 用器具について

- (1) 競技に使用する用器具(投擲物・棒高跳用ポールを除く)は、原則として競技場備え付けの器具を使用すること。
- (2) 投擲物・棒高跳用ポールを持参する場合、競技開始時刻の 1 時間 30 分前から 1 時間前までに検査を受けること。(借り上げ方式) 検査場所は大会本部前とする。
- (3) 棒高跳用ポールについては前日に競技場に郵送することは禁止する。競技当日に各自で競技場まで運ぶこと。

11. 表彰について

- (1) 男女総合優勝校には、優勝杯と賞状を、2 位、3 位には賞状を授与する。
- (2) 男女トラック優勝校には、賞状を授与する。
- (3) 男女フィールド優勝校には、賞状を授与する。
- (4) 対校の部の各種目の優勝者、2 位、3 位には賞状を授与する。
- (5) 各種目の表彰式は各競技終了後に順次執り行う。対象者は競技終了後に中央ロビーに集合すること。
- (6) 最優秀選手として男女各 1 名ずつ各校の監督の協議により選出し、賞状を授与する。

12. 抗議および上訴について

- (1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表(アナウンス)されてから 30 分以内(予選、準決は 15 分以内)に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。抗議に対して審判長は速やかに裁定する。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。
- (2) 審判長の裁定に不服の場合は、上訴申立書と預託金 1 万円を添えてジュリー(上訴審判員)に上告することができる。この預託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。

13. その他

- (1) 対校種目の競技服装について、原則自大学のユニフォーム着用とするが、新入部員のユニフォーム発注の都合等で準備ができない場合は、特別に高校時のユニフォーム着用を認める。
- (2) 貴重品の管理は、すべて各自で行うこと。盗難・紛失について、主催者は一切責任を負わない。
- (3) 競技者の付き添いは一切認めない。従って競技者以外は、トラックならびフィールド内に立ち入ることはできない。
- (4) 競技中に発生した怪我等について、主催者は応急処置のみ行うがその後の治療等は本人負担とする。
- (5) 大会期間中に出たゴミは、必ず各自で持ち帰ること。
- (6) 競技者（選手）がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じられる場所からの撮影は禁止する。また、撮影している場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内容の確認をする場合がある。
- (7) 大会運営にあたり取得した以下の個人情報、大会の資格審査、プログラム編成及び作成、記録発表、参加校陸上競技部ホームページ、その他競技運営に必要な連絡等に利用する。（氏名、所属、登録陸協・登録番号、出身校、他大会の記録・順位など）
- (8) 大会の記録・映像・写真・記事などは、参加校及び参加校が承認した第三者が、大会運営及び広報等の目的で、大会プログラム等の配布資料、インターネット等の媒体に掲載することがある。
- (9) 不審者等がある場合、大会本部まで問い合わせること。
- (10) その他、不明な点は大会本部に問い合わせること。